

■（１１６）震災から２年、忘れられない「新聞少女」ら

東日本大震災から２年になる。岩手県陸前高田市の「奇跡の一本松」が名勝・高田松原の跡地に戻った。現地発の報道にかかわった震災からの１年間で、徐々に枯れていっていた松だった。津波に耐えた“希望の星”を後生に残そうと保存処理をして再建された。

一本松とともに忘れられない少女がいる。そばの市民会館で犠牲になった一人の女子高校生だ。新聞販売所の娘さんで、朝刊を配ってから学校に通う「新聞少女」だった。地震の後、水泳部の練習場だったプールから市民会館に避難したが、そこも安全ではなかった。二カ月後に同校に入学した妹は姉の制服を着ていた。妹もまもなく３年生になるはずだ。命を落とした姉のように、新聞配達を担う中学高校生は全国に４千人いる。年々減っているが、まだ眠い早朝も部活を楽しみたい夕方も、雨の日も暴風の日も休めない仕事をしながら学校に通う若者たちだ。いくら記者が記事を書いても、彼ら無しでは読者に届かない。

震災２年の特集番組などで津波の映像が流れる。報道にかかわった身ながら毎回、胸が締め付けられる感覚に襲われる。そこに多くの人が出たことを絶対に忘れない。（山）